

耕作放棄地を再生してそばづくり

収穫したそばを使って、そば打ち教室を開催。そばまつりでは、特製『七覚そば』が振る舞われ、地域や地域外の人たちと交流を図っています。



(上) 脱穀したそばを実とそれ以外に分ける作業状況

(左上) 収穫したそばを使ったそば打ち体験

(左) 七覚産そば100%の『七覚そば』

地域の保全活動状況

むらづくり協議会では、地域の保全に向けて、様々な活動を実施しています。



(上) 地域の課題を解決するためにワークショップを開催

(右上) 農地保全に向けて草刈りの実施

(右) 地域の人々で植栽活動

地域みんなで快適な

農村環境を守る



ひび割れた農道をコンクリート舗装で再生

甲府市 七覚むらづくり協議会

地域全体で支えあう
組織づくり

山梨県甲府市南部に位置する七覚地区は、64戸約200人が暮らす地域です。この地域ではかつて、養蚕業が盛んでしたが、生糸価格の低落により衰退し、放置された桑畑は木が生い茂り、耕作放棄地が増えていました。そんな状況を打開し、二度と荒地に戻したくないという思いから、平成24年に地域の住民が中心となって、「七覚むらづくり協議会」を設立しました。



40aの畑に広がるそばの花

地域のみんな共同作業

協議会では、まずはじめに作付けをしない農地を借り受けて、そばの栽培を始めました。地域のみんなでそばの種まきを行い、収穫されたそばを振る舞う「そばまつり」を開催しました。イベントには地元だけではなく、インターネット等を利用して募集した地区外の人たちも参加して一緒に作業し、交流を積極的に図っています。

快適な農村環境を目指して

協議会事務局の担当者は、「組織をつくり、活動してきたことで、世代間の隔たりがなくなり、ふれあいが生まれ、地域の将来をみんな考えて良いきっかけとなった。今後は、農地の保全を継続していくために、集落営農に取り組み、作物の団地化等を進めていきたい」と将来の抱負について話していました。

